



エコアクション21

環境活動レポート 平成21年度

(期間：平成21年4月～平成22年3月)



平成22年6月発行
九州林産株式会社



このシンボルマークは、九州電力グループが取り組む4つの事業領域(環境にやさしいエネルギー事業、情報通信事業、環境・リサイクル事業及び生活サービス事業)を「4つ葉のクローバー」でデザインしたもので、クローバーの茎は、Energy、Ecologyなどの「e」を意味し、九州電力がグループ全体の事業活動を通して環境活動を推進していく姿勢を表現しています。



1 環境方針

九州林産株式会社は、次の「環境方針」に基づき環境保全活動に取り組んでいます。

環境方針

【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し、豊かな社会とより良い地球環境の実現を目指します。

【基本方針】

- (1) 環境保全に関わる法関連規制の遵守により、社会的責任を遂行します。
- (2) 循環型社会の形成を目指して、節電、節水などの省資源・省エネルギー化、切捨間伐材などの未活用資源の有効利用、廃棄物の再資源化などに取り組む、環境負荷の低減に努めます。
- (3) 森林管理事業、緑化事業、住宅事業などを通じて、自然の恵みを享受できる持続可能な森林の保全や、緑がもたらす安らぎの都市空間などを創出して、自然豊かな社会の構築に貢献します。
- (4) 環境情報を積極的に公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。
- (5) 環境方針、環境目標、環境活動計画を全社員に周知します。

制定日：2007年12月14日

改定日：2009年11月10日

九州林産株式会社

代表取締役社長 佐藤 尚文

なお、当社の環境方針は「九州電力グループ環境憲章」と整合を図り定めています。

九州電力グループ環境憲章

～環境にやさしい企業活動を目指して～

九州電力グループは、持続可能な社会の実現を目指して、グローバルな視点で地球環境の保全と地域環境との共生に向けた取り組みを展開します。

1. 地球環境問題への適切な対応と資源の有効活用に努め、未来につなげる事業活動を展開します。
2. 社会と協調し、豊かな地域環境の実現を目指した環境活動に取り組めます。
3. 環境保全意識の高揚を図り、お客さまから信頼される企業グループを目指します。
4. 環境情報を積極的に公開し、社会とのコミュニケーションを推進します。



2 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者氏名

九州林産株式会社

代表取締役社長 佐藤 尚文

(2) 所在地(本店)

〒815-0041 福岡市南区野間3丁目7番20号

(3) 環境管理関係の連絡先

環境管理責任者 : 総務部長 松尾 和秀

環境管理担当者 : 総務部経営企画グループ 横内 博史

連絡先 : 092-562-3013

(URL: <http://www.q-rin.co.jp>)

(4) 主な事業内容

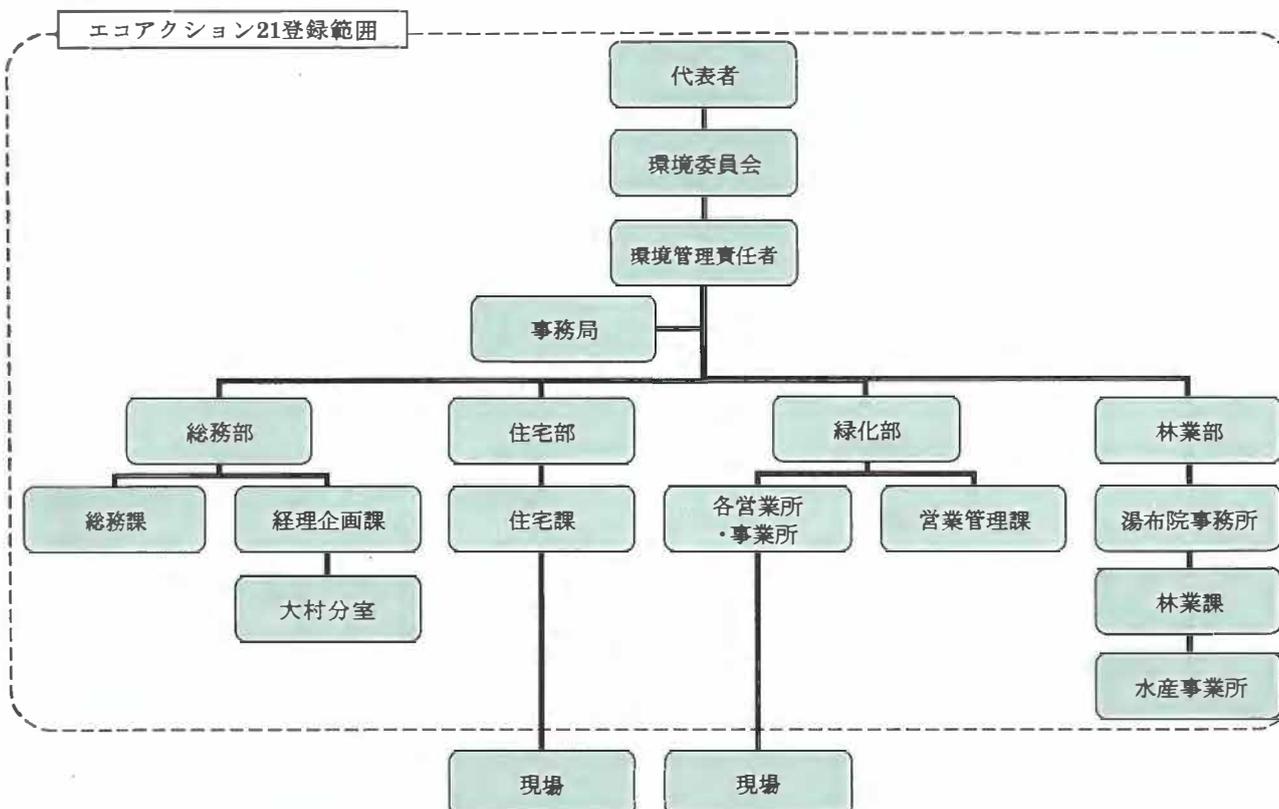
緑化、住宅、造林、木材、水産事業

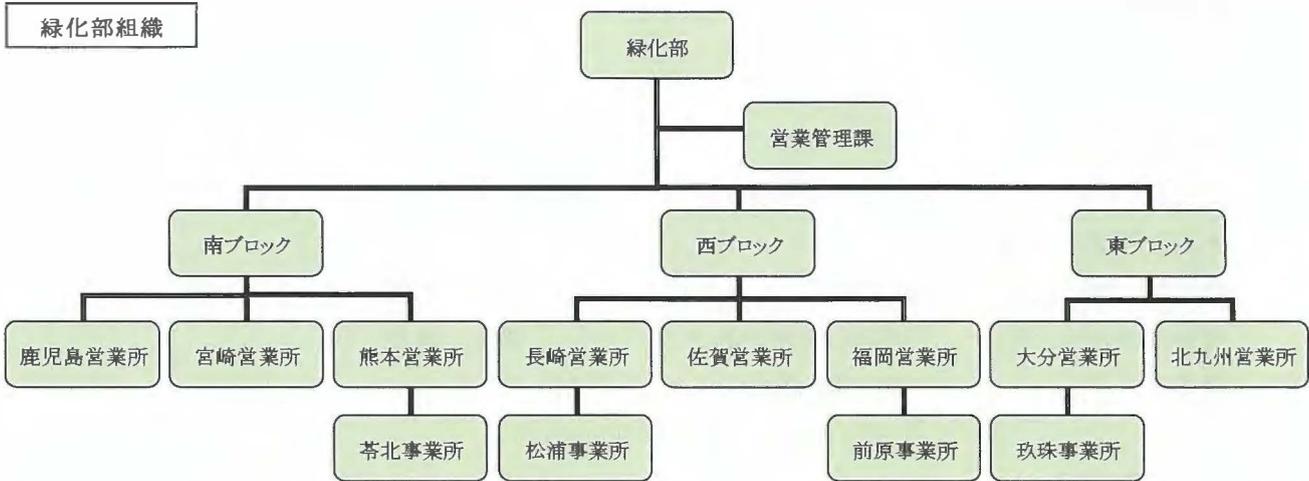
(5) 事業の規模

	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度
売上高(全社分)	百万円	2,829	2,679	2,985
従業員数(年度末人員)	人	40	38	105
床面積	m ²	1,894	1,894	5,832

注) 平成19年度及び20年度の従業員数・床面積は、本店ビル(総務部・住宅部・緑化部及び福岡営業所)のみの数値、平成21年度は全社の数値

(6) 対象組織





3 平成 21 年度環境目標及び具体的取組み内容

(1) オフィス・工場等

項目		目標	具体的取組み内容	
地球環境問題への取組み	二酸化炭素排出量	20 年度実績以下	・電力量・自動車燃料・冷暖房用燃料・工業用燃料等の使用量削減	
	電力使用量 (工場電力を含む)	20 年度実績以下	・適正温度設定(夏季 28℃・冬季 20℃) ・不要な電源(パソコン・プリンター)の OFF ・不要箇所及び昼休みの消灯 ・インバータ化、省エネタイプ照明への切替え ・近接階の階段利用	
	自家物流輸送 (特殊車両等を除く)	低公害車 導入比率	60%以上	・車両更新時における積極的な低公害車の導入
		燃料消費率 (燃費)	11 km/ℓ 以上	・エコドライブの徹底
	用紙使用量	20 年度実績以下	・両面印刷及び裏面使用等によるコピー用紙使用量の削減 ・電子媒体を活用したペーパーレス化等の推進	
	上水使用量	20 年度実績以下	・節水の徹底	
取組み 循環型 社会形成への	リサイクル率	産業廃棄物	75%以上	・産廃物の分別等の徹底によるリサイクル推進 ・九州環境マネジメント㈱による古紙回収の徹底
		古紙	100%	
	グリーン調達 (事務用品グリーン購入率)	100%	・事務用品のグリーン調達の徹底	
	一般廃棄物	20 年度実績以下	・リサイクル可能物の分別徹底	



(2) 現場

	項目	目標	具体的取組み内容
地球環境問題への取組み	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量削減の推進	・電力量・冷暖房用燃料・工業用燃料などの使用量把握に努め、二酸化炭素排出量を把握する。
	電力使用量	電力使用量削減の推進	・電力使用量の把握に努め、電力使用量削減の意識付けを図る。
	上水使用量	節水の推進	・上水使用量の把握に努め、節水意識の向上を図る。
循環型社会形成への取組み	産業廃棄物リサイクル率	75%以上	・産廃物の分別等の徹底によるリサイクル推進
	一般廃棄物	一般廃棄物削減の推進	・リサイクル可能物の分別徹底

4 平成 21 年度環境活動の実績及び評価

(1) 実績(オフィス・工場等)

	項目	環境目標	単位	目標値	実績値	対目標	
地球環境問題への取組み	二酸化炭素排出量	20 年度実績以下	kg-CO ₂	544,201	543,977	+0.04%	
	電力使用量 (工場電力を含む)	20 年度実績以下	kWh	741,548	662,621	+10.6%	
	自家物流輸送 (特殊車両等を除く)	低公害車 導入比率	60%以上	%	60	62.1	+2.1%
		燃料消費率 (燃費)	11 km/ℓ 以上	km/ℓ	11.0	12.4	+12.7%
	用紙使用量	20 年度実績以下	枚	782,784	853,248	▲9.0%	
	上水使用量	20 年度実績以下	m ³	2,275.5	1,489.1	+34.6%	
循環型社会形成への取組み	リサイクル率	産業廃棄物	75%以上	%	75	93.4	+18.4%
		古紙	100%		100	100	0%
	グリーン調達 (事務用品グリーン購入率)	100%	%	100	88.2	▲11.8%	
	一般廃棄物	20 年度実績以下	kg	6,356.1	5,302.7	+16.6%	



(2) 評価(オフィス・工場等)

① 二酸化炭素排出量

- ・ 電力使用量の減少や社有車の燃費効率の向上により、目標を達成した。引き続き、冷暖房の温度管理やエコドライブなど運転方法の配慮を励行する。

② 電力使用量

- ・ 主な減少の要因は、水産事業所の業務見直しによるものである。各従業員の節電に対する意識の向上が図られた結果、全社的にも減少した。今後もパソコン・プリンターなどの不使用时の電源オフや冷暖房の温度管理など電力使用量の抑制に取り組む。

③ 自家物流輸送

- ・ 低公害車導入比率は、車両入替え時に随時導入した結果、目標を上回った。今後も車両の更新時において積極的に導入していく。
- ・ 各箇所において、エコドライブの意識付けを徹底した結果、期間中の燃費は目標を上回った。今後も CO₂ 削減に向けて一層の取組みを行う。

④ 用紙使用量

- ・ 両面印刷及び裏面使用などの徹底を図ったが、全社的な業務量増加に伴い使用量は増加した。今後は、業務の省力化や電子媒体を活用したペーパーレス化なども推進し、使用量の削減を図り、環境負荷の低減に努める。

⑤ 上水使用量

- ・ 全社では目標より約 786 m³の減少となったが、このうち、水産事業所の業務見直しの影響は約 662 m³である。今後も引き続き節水に取り組み、使用量の削減を図る。

⑥ リサイクル率

- ・ 産業廃棄物の大部分を占める製材過程で発生した木屑やバークを堆肥化するとともに、オフィスで唯一発生する産業廃棄物の蛍光灯については、リサイクル率を 100%とした結果、目標を達成。
- ・ 古紙については、100%のリサイクル率であり、今後も維持継続に努める。

⑦ グリーン調達

- ・ 21 年度より電子カタログ購買システムを導入した結果、前年度の実績値より 24.4%改善したが、グリーン購入できない物品が一部あったため、目標の 100%には未達。

⑧ 一般廃棄物

- ・ 発生量の減少は、前年の一部施設の廃止に伴う発生量増の反動減による。引き続きリサイクル可能物の分別徹底に取り組み、一般廃棄物の減量を推進する。



(3) 実績(現場)

	項目	環境目標	単位	目標値	実績値	対目標
地球環境問題への取り組み	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量削減の推進	kg-CO ₂	-	2,173	-
	電力使用量	電力使用量削減の推進	kWh	-	5,749	-
	上水使用量	節水の推進	m ³	-	150.0	-
循環型社会形成への取り組み	産業廃棄物リサイクル率	75%以上	%	75	79.2	+4.2%
	一般廃棄物	一般廃棄物削減の推進	kg	-	2,464,402.0	-

(4) 評価(現場)

- ・ 把握できる箇所では、データの収集を行った。引き続き、データ収集の体制を整え、環境負荷の低減に努める。

5 中期目標(平成 22 年度～平成 24 年度)

中期目標については、平成 21 年度実績をベースに以下のとおり定めた。

(1) 全社共通項目(オフィス・工場等)

項目		平成 21 年度 (実績)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
二酸化炭素排出量		544 t-CO ₂	543 t-CO ₂ 以下	535 t-CO ₂ 以下	527 t-CO ₂ 以下
主な項目	電力消費量	250 t-CO ₂	250 t-CO ₂ 以下	247 t-CO ₂ 以下	244 t-CO ₂ 以下
	車両燃料	251 t-CO ₂	250 t-CO ₂ 以下	245 t-CO ₂ 以下	240 t-CO ₂ 以下
上水使用量		1,489.1 m ³	1,488 m ³ 以下	1,459 m ³ 以下	1,431 m ³ 以下
一般廃棄物最終処分量 (紙類以外)		5,026 kg	4,820 kg 以下	4,772 kg 以下	4,724 kg 以下
産業廃棄物リサイクル率		93.4%	93.4% 以上	94.0% 以上	95.0% 以上
事務用品グリーン購入率		88.2%	88.6% 以上	89.0% 以上	90.0% 以上

(2) 全社共通項目(現場*)

環境データの収集に努める(平成 22 年度～平成 24 年度)。

※現場とは、緑化部門及び住宅部門の工事現場を指す。



6 次年度の環境活動計画(主な取り組み内容)

(1) 事業所における省エネ・省資源活動の推進

- ・空調の適温化(冷房 28℃程度、暖房 20℃程度)を徹底する。
- ・昼休みや残業時などにおける不必要な照明の消灯に努める。
- ・近接階は、エレベーターの使用を控え、階段を使用するよう努める。
- ・パソコン・プリンターなどの OA 機器は、不使用時の電源オフを徹底する。
- ・手洗い時、洗い物においては、使用場所に注意喚起のシールを貼り、日常的に節水を励行する。

(2) 運輸面での CO₂削減推進

- ・車両更新時における低公害車の導入を実施する。
- ・エコドライブなど運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止など)を励行する。

(3) 産業廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取り組み

- ・分別の徹底などによる産業廃棄物リサイクル率の向上及び古紙リサイクル率の維持に取組む。

(4) 事務用品(紙類、文具類)のグリーン調達の推進

- ・電子カタログ購買システムによる事務用品のグリーン調達を徹底する。

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規

適用法規	該当する活動
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物及び産業廃棄物の排出 ・廃棄物排出の際の適正処理(委託契約書、適正保管及びマニフェスト発行など) ・マニフェストの管理及び報告
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・解体で生じる建設特定資材廃棄物の再利用 ・下請負人への適正な指示

(2) 違反、訴訟などの有無

当社の事業活動に係わる環境関連法規などの遵守状況を確認した結果、違反はなかった。また、関係機関などからの指摘、利害関係者からの訴訟もなかった。

8 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度の環境目標については、全体的には概ね達成できているが、各箇所において、目標が未達成の場合や問題点などがある場合は、都度是正処置を実施することが必要である。

また、今後の環境目標は、二酸化炭素排出量、上水使用量、廃棄物排出量などの全社共通項目に加えて、「当社の製品及びサービスに関わる環境目標」を各部署で設定し、継続的な取組みを行う。

平成 21 年度は全事業所を対象にエコアクション 21 の認証・登録を取得したが、改善事項については見直しを行い、当社の環境方針を基に環境負荷の削減に向けた更なる取組みの強化を図りたい。